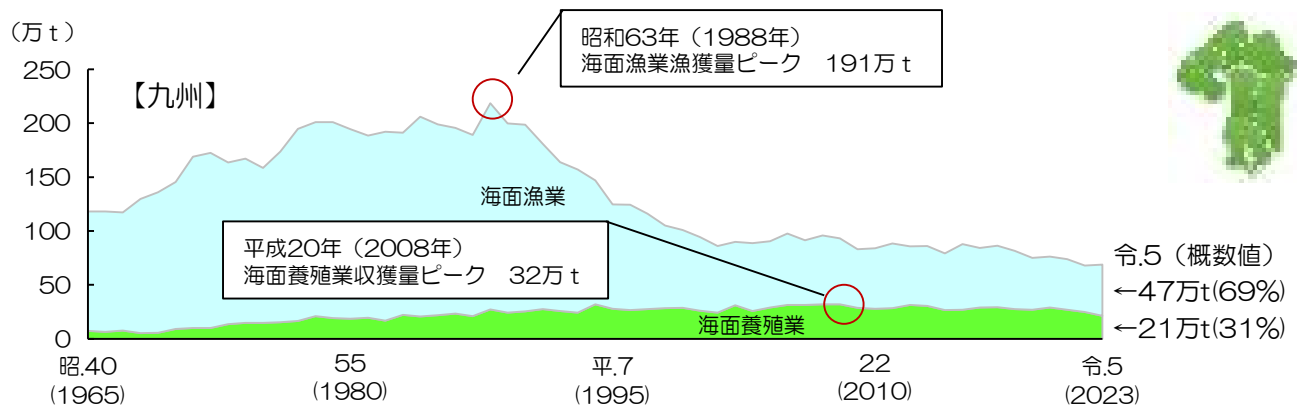
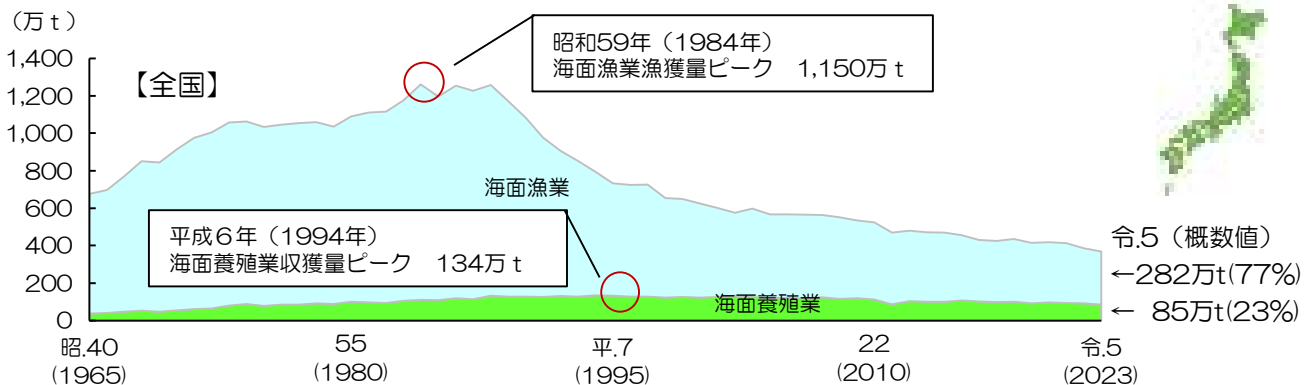


漁獲量の減少にともない養殖の割合が増加しています

海面漁業の漁獲量は、全国が昭和59年、九州が昭和63年にピークを迎え、それ以降はそれぞれ減少傾向で推移しています。一方、海面養殖業の収穫量は、昭和40年代から緩やかに増加して以降、一定量を維持し続けていますが、海面漁業の漁獲量が減少しているため、相対的に海面漁業・養殖業生産量全体に占める割合が増加しています。

昭和60年代以降、漁獲量が減少していく中で魚介類の輸入量は増加していましたが、平成10年代に入ると、国内消費量の減少とともに輸入量も減少し、自給率は53～62%の間で推移しています。

■ 全国と九州の海面漁業漁獲量と海面養殖業収穫量の推移

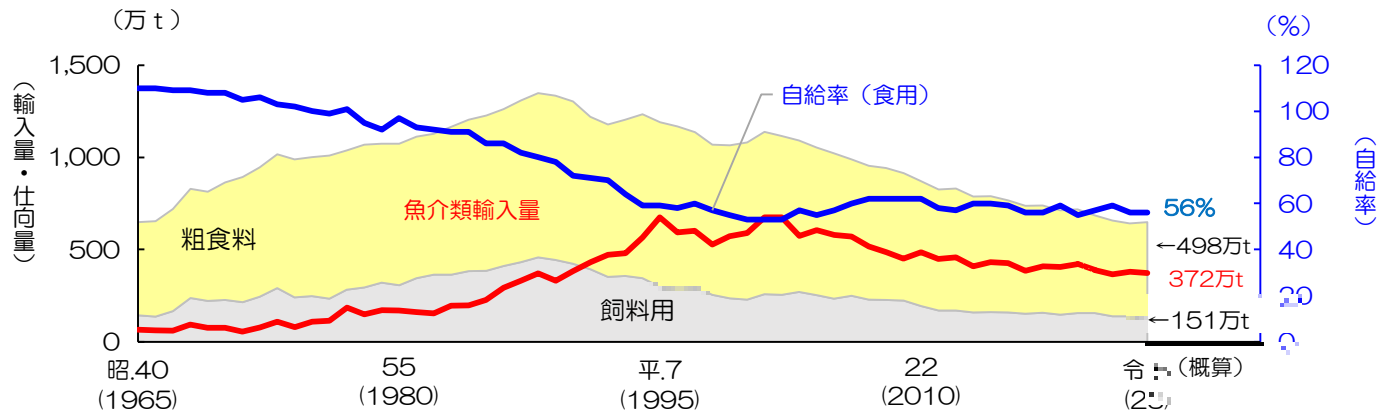


資料：農林水産省統計部『海面漁業生産統計調査』

注：1 積み上げグラフです。

2 「(%)」は、海面漁業漁獲量と海面養殖業収穫量の計に対する割合です。

■ 国内の魚介類輸入量と国内消費仕向量（粗食料・飼料用）、自給率の推移



資料：農林水産省『食料需給表』

注：1 魚介類に海藻類は含んでいません。

2 国内消費仕向量（粗食料・飼料用）は積み上げグラフです。